平成 24 年 3 月 27 日
国立情報学研究所
根岸名誉教授

国際学術情報流通基盤整備事業 (SPARC Japan)
平成 15 (2003) 年度～平成 20 (2008) 年度活動報告書
要約と目次 (案)

報告書の性格：資料的ありでかつ通読性を持たせ、一読、本事業発足の背景から、第 1 期および第 2 期、6 年間における事業展開とその成果が把握できるものとする。「国際学術情報流通基盤整備事業 (SPARC Japan) 活動のまとめ、平成 15 (2003) 年度～平成 20 (2008) 年度」(平成 21 (2009) 年 3 月) に要点は集約されているので、これを復習、再編しつつ肉付け、解説してゆく方向で考えたい。

要約

国立情報学研究所における国際学術情報流通基盤整備事業、通称 SPARC Japan は、わが国の英文学協会誌の国際的認知度の向上により、わが国の学術研究成果の国際発信力を強化することを目指して、平成 15 (2003) 年度に開始された。本報告は、それ以後、平成 20 (2008) 年度までの 6 年間における同事業の実績とそれに対する評価をとりまとめたものである。

SPARC Japan の事業企画、発足には、情報通信技術の進展に伴う学術コミュニケーションの変革に対して、わが国の学協会が十分に対応できていないとの現状認識があり、事前に調査された日本の論文の「海外流出率」の高さもこれを裏付けるものであった。この際、米国研究図書館連合による SPARC との連帯招請があり、これを受けて、日本型 SPARC として、各分野の有力研究者の協力のもとに本事業が発足した。

本事業では学協会と大学図書館のパートナーシップを基調として、特に支援すべき学協会誌を本事業のパートナー誌として選定、支援する一方、より幅広く、研究者を含めた学術情報の受発信に関わる各層に対する啓発活動を展開するものとした。

第 1 期 (2003～2005 年度) では、(1)事業参画選定誌の募集と活動支援、(2)編集工程の電子化支援、(3)ビジネスモデルの構築支援、(4)国際連携の推進、(5)調査・啓発活動を重点事項として、パートナー誌 (2008 年度末の時点で 45 誌) を選定し、それらの電子ジャーナル化やこれに対応するビジネスモデルの創出を支援した。第 2 期 (2006～2008 年度) では、同期末におけるパートナー誌の自立、財政的補助の終了を予定して、(1)ビジネスモデルの構築、(2)国際連携の推進、(3)Advocacy 活動を重点項目として所要の事業を展開した。この間、各種の調査・評価活動も実施し、事業の企画、展開にその結果を反映させている。

本事業推進の結果、パートナー誌については、そのすべてが電子ジャーナル化された。

また、情報通信系では電子オンリーの英文速報誌が創刊され、また生物系ではパッケージ化を目途として共同出版機構が創設され、生物系、数学系では海外パッケージへの参加が実現した。インパクト・ファクター（IF）の獲得は国際的認知度向上の重要な手段となるが、本事業開始後において5誌が、その前提となる Web of Science データベースへ新たに採録された。

こうした成果を、国際発信力の観点から総合的に評価するために、IFの「改善指標」を算出したところ、事業開始時点を屈曲点としてIFの一段の向上が計測され、これにより本事業の有効性、すなわち、わが国の学協会誌の国際的認知度向上に対する相当の貢献が看取されるところである。

啓発（Advocacy）活動に関しては、SPARC Japan 連続セミナーや国際会議を開催し、SPARC Japan ニュースレターを発行するほか、種々の機会を利用して、研究者コミュニティ、学協会、大学図書館等、本事業の趣旨、成果の広報を行った。その結果、本事業に対する認知度は向上しているものと考えられる。ここで前記のIF「改善指標」を日本発行の雑誌全体について算出すると、これには事業開始後において一定の向上が計測され、本事業の啓発活動がこれに応分の貢献を果たしているものとみる。

学術雑情報に対するオープン・アクセスは、本事業開始時点では不明確であったが、海外では今や大きな潮流として定着しつつある。この点、本事業においても既に取り上げ、検討しているところであるが、今後は学協会誌において、オープン・アクセス・コンプライアントなビジネスモデルの構築が必須であろう。従って、これへの対応が、本事業の今後の継続において重要な事項になると考えられる。

<小見出し入り詳細目次>

要約

目次

図表目次

1. はじめに
2. 事業の背景と開始への経緯
 2. 1 学術コミュニケーションの変革
 - 2, 2 わが国学術論文の「海外流出」：本事業発足時の現状認識
 - 1) わが国の論文の海外流出率の調査推計
 - 2) 日本の学術雑誌電子ジャーナル化の現状認識
 2. 3 米国 SPARC からの連帯招請
3. 事業の企画と推進体制・事業内容
 3. 1 SPARC Japan の事業構想
 - 1) 日本型 SPARC
 - 2) 学協会・大学図書館のパートナーシップ
 - 3) パートナー誌と新しいビジネスモデル
 - 4) 関連機関の役割
 - 5) 学協会・研究者への期待と啓発活動
 3. 2 推進体制
 - 1) 国際学術情報流通基盤整備事業評議会、同運営委員会
 - 2) 国立情報学研究所・国際学術情報流通基盤整備事業推進室
 - 3) 本事業の発足：第1回評議会の主要論点
(全体計画について／事業参画学協会・パートナー誌の公募について)
 - 3, 3 事業内容
 - 1) 事業の目的及び基本的な考え方
 - 2) 第1期の重点事項
 - 3) 第2期の重点事項
4. 個別事業の内容と活動結果
 4. 1 パートナー誌の支援
 - 1) パートナー誌の選定

(パートナー誌公募と選定／パートナー誌の選定基準と選定結果／
パートナー誌の追加／パートナー誌の異動)

- 2) 電子ジャーナル化の進展と公開プラットフォーム
 - 3) 電子オンリーの出版の進展
 - 4) 海外商業出版社との出版契約の変容
 - 5) 電子投稿査読システムの導入と改善
 - 6) ビジネスモデルの確立
(コストの削減、回収／パッケージの形成／大学図書館コンソーシアムとの契約)
 - 7) プロモーション活動
 - 8) インパクト・ファクターの獲得
 - 9) 新規プロジェクトの創設
 - 10) オープン・アクセス、機関リポジトリへの対応
(オープン・アクセス／機関リポジトリ)
4. 2 国際連携活動の推進
- 1) SPARC(US)、SPARC Europe との連携
 - 2) BioOne への参加
 - 3) Project Euclid への参加
4. 3 Advocacy 活動の展開
- 1) SPARC Japan セミナー
 - 2) 国際シンポジウムの開催
 - 3) 広報誌「SPARC Japan ニュースレター」の発行
4. 4 各種調査活動・評価活動
- 1) 学術英文誌の利用と投稿に関する調査
 - 2) 電子論文投稿システム 比較調査
 - 3) 研究活動及びオープン・アクセスに関する調査
 - 4) 研究成果情報発信強化に関する総合的調査
 - 5) 大学図書館から見た国際学術情報流通基盤整備事業パートナー学会
及びパートナー誌評価
 - 6) 物理系パートナー誌海外動向調査
5. 本事業の成果と評価
5. 1 パートナー誌の動向評価：
- インパクト・ファクターの「改善指標」を手がかりとして
- 1) Web of Science データベースへの収録
 - 2) インパクト・ファクターの獲得
 - 3) インパクト・ファクターの動向分析と「改善指標」

(インパクト・ファクターの通年的趨勢／
事業前・事業後のインパクト・ファクターの比較方法／
事業前期間の設定／接続年のインパクト・ファクター推計／
事業前後の「改善指標」)

- 4) インパクト・ファクターの改善に関する総体的所見
- 5) 分野別の状況
(物理系／情報通信系／化学系／生物系／数学系／材料系／医学系／機械系)
- 6) インパクト・ファクター未獲得誌
5. 2 啓発活動等の成果と評価
 - 1) SPARC Japan 事業の認知度
 - 2) 日本誌全体におけるインパクト・ファクターの動向評価
6. 本事業の総括と継続に向けての課題
 - 1) パートナー誌支援事業
 - 2) 啓発活動
 - 3) 今後の課題：オープン・アクセス化への対応
7. 関連記録
 7. 1 委員会等開催記録
 - 1) 国際学術情報流通基盤整備事業評議会・運営委員会
 - 2) 総合誌調査委員会
 - 3) 大学図書館から見た事業評価ワーキンググループ
 - 4) SPARC Japan セミナー実行委員会
 - 5) SPARC Japan ワーキンググループ
 7. 2 委員名簿
 - 1) 国際学術情報流通基盤整備事業評議会
 - 2) 国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会
 - 3) 総合誌調査委員会
 - 4) 大学図書館から見た事業評価ワーキンググループ
 - 5) SPARC Japan 連続セミナー実行委員
 - 6) SPARC Japan ワーキンググループメンバー
 7. 3 SPARC Japan セミナー記録
 7. 4 総合年表
 7. 5 刊行物一覧